

もしも同じ歳の父と娘が話し合えたら

単身赴任の身から子どもの成長を考える

娘が徳島文理小学校に通い始めてもうすぐ一年になります。三十五年程前、子供の私もここにいたのかと思うと感慨深いものがあります。

一九九三年に卒業するまでの六年間、多くの事を学ばせていただきました。この「ほほえみ」も、もつと薄い本だったと記憶していますが、継続して発刊してくださっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

娘が持ち帰る宿題の中には音読や縄跳びなど、自分も苦労した？一年生には適度に難しい内容が含まれています。六、七歳の記憶なので曖昧ですが「自分はこんなに上手にできたかな？」と思う事が多々あります。

夜、私が仕事から帰ってゆっくりしていると、その日にあった学校での出来事を聞かせてくれます。「○○君がこんな事言ってた！」や「○番目に登校だった」等です。こんな時、もし自分が娘と同級生だったらどんな話をするのだろうと思います。先生の話や家庭での出来事、父に怒られた話等でしようか。同じ校舎で、おそらく同じであろう景色を見ている娘の話聞き、そのような想像が膨らみます。娘が成長してもその日にあった出来事や世間話をできるような関係を保てたら良いですね。

伝統ある母校はかけがえのない存在です。恩師が教壇に立っておられたり、同級生が教師をしていたり、自分が成長できているかどうか振り返るきっかけにもなります。時代は違えども、娘が楽しく充実した学校生活を送ってくれることを切に願います。

私は現在、単身赴任中で二週間に一度のペースで娘に会う生活をしている。二週間毎に会う娘は、特に勉強面において成長を感じる。たとえば、算数カードの足し算や引き算の計算が早くなっていたり、苦手な漢字が読めるようになっていたりといったことである。このような成長は、懸命に勉強する本人の頑張りや妻の教育に対する行動が影響していると感じる。では、父親として限られた時間の中で如何にして、娘の成長に寄与することができるか。私は、娘との会話が成長を促すひとつの機会と捉えている。たとえば、勉強を教えている時、娘は思い付きや他から入ってくる情報をもとに、勉強と異なる話をしてくる。本来であれば「勉強に集中して！」「勉強が終わったあとね！」といった言葉を返すのがよいのかもしれないが、私は話を遮らないようにしている。娘が楽しそうに話をしているし、私も楽しいからである。勿論、会話が成長を促すのかという意見もあるだろうが、私見として、会話後の娘の勉強に向かう姿勢は、会話前よりも前向きな様子が見られる。主観ではあるが、娘の勉強に対する前向きな姿勢の醸成には、会話が少なからず影響していると考ええる。そして、会話が娘の成長にも僅かであるが寄与していることだろう。

単身赴任は、娘の成長を毎日見えない寂しさがあるが、単身赴任だからこそ見える部分も多い。みなさんのご家庭では、子どもとどのような会話をされていますか？今一度、振り返ってもらふことも子どもの成長にとっては、重要なことだと思う。

子どもと過ごす一日一日を大切に

長女が文理小学校に入学してから、はや二年が経とうとしております。娘も今年で九歳。十八で親元を離れるかもしれないと考えたら、一緒に過ごす時間のうち、実に二分の一が過ぎ去ったことになります。何ともはや！成人までも、もう折り返し地点。子どもの成長の早さには驚かされます。初産なのにスピード出産で、臍臑とした意識の中響いた大きな低めの泣き声。「きれいな赤ちゃんですわね」と看護師さんが言ってくれたこと、退院の際の記念写真でなぜか中指だけをピンとたてていたこと、よくしゃつくりをしていたこと、画面のアンパンマンに触ろうとしたのか、テレビに向かつてよたよたと初めて歩いた日。きつとこの先何度も思い出すでしょう。そんな赤ちゃんだった娘ももうお姉ちゃんです。少しマイペースなところもありますが、優しく好奇心旺盛で、娘の何気ない一言から気づきを得ることも多いです。娘のチャレンジ精神に感化されて、親の私も重い腰をあげ、先日、化粧品検定というものを受けてきました。それから香水やアロマに関心を持ちたり（良い香りって癒されますよね）、着色料や添加物を気にしてみたり、視野が広がった気がします。この歳で新しい興味事や趣味ができるのは有難いことです。これからも子どもとの時間を大切に、互いに成長していきたいです。

AIなど新しい技術の台頭、猛暑など異常気象や自然災害の増加、目まぐるしく変わりゆく経済や世界情勢…十年、二十年後はどうなっていくのでしょうか。これからの子どもたちの未来が明るく素晴らしいものであることを願ってやみません。

親子で楽しむ読書会

子供が文理小学校に入学してから、楽しみにしている行事に親子読書会があります。入学当初から、新型コロナウイルス感染症対策のため各クラス別々で実施される形式にしか参加したことはありません。それでも、同級生の保護者の方が選んだ本を皆で共有する機会は大変有意義に思います。実際に、選ばれた本の中には、初めて出会うものも多くありました。

幼い頃からの読み聞かせの重要性を聞くようになり久しいですが、我が家の場合、子供が小学生になるとその時間はぐっと減り、子供自身が一人で読書する時間が増えました。時には音読の課題に加えて、自分の気に入った本の一節を私に読んでくれるようになりました。それは必要なことで、とても大事な時間ではありませんが、親子で本を選び、わくわくしながら共に表紙をめくったあの感覚とは少し違います。親子読書会をきっかけに、また子供と本を選ぶ機会ができたことは、私共にとって嬉しいことでした。

そして、読後に同級生の生の声が聞けることも会の魅力です。同じ本を読んでも当然感想はそれぞれで、感性の豊かさに驚くこともしばしばです。帰りの車内では本の感想だけでなく、同級生の意見に話が及ぶこともあります。それは、本に対してだけでなく、同級生について深く知る一つのきっかけにもなっています。

親子読書会は、本を親しむ機会を得ることに加え、そこに至る過程を親子で楽しんだり、事後に学びを深めたりと、子供の成長や親子の繋がりにとても有益な機会です。我が家にとっては来年度が最後なので、残りの機会を満喫したいと思います。

末広大橋の工事に思うこと

母として

ここ何年か、毎日のように末広大橋を北から南に渡っています。数年前に橋の南側で工事がありました。車線を分けていた小さな林が整地され、文化の森方面へ抜ける道路ができました。

そして最近、橋の北側で大規模な工事が展開しています。十一月に橋の北側の交差点で東西の交通が止められました。交差点から橋の北側にかけて、道路の中央部分のアスファルトが掘り返されています。私はそれを見ながら、数カ月前にあらかじめ広げられていた端の道路を通って、末広大橋を渡ります。この掘り返された中央部分と、しらさぎ大橋から伸びてきた高架の道路がつながるのでしよう。

あらためて検索すると、これらは何十年の計画が進められている徳島環状線の工事の一部のようです。しらさぎ大橋とともに国道十一号、国道五十五号の迂回路となるが、東環状線は未だ全通しておらず迂回路としての機能は不十分である、とのこと。末広大橋は一九七五年に完成しており、有料道路だったことを覚えていません。当時は環状線という構想もなかったと思います。末広大橋という古い橋が環状線の計画に組み込まれ、今まで以上の機能を期待されているということでしょうか。

子供といっしょに末広大橋を渡ることもあり、下から眺めることもあります。私は昔の末広大橋を思い出しながら、今の変化を見て、未来を想像しています。子供にとっては工事が終わったあとの末広大橋が、記憶に残ると思います。私の見た工事を昔話として話し、未来へ続く時間の流れを共有するのが楽しみです。

宿題しなさい、早く寝なさい、起きなさい、口煩わしさを繰り返す毎日。ワガママボディーを見れば一目瞭然、二人の息子を甘やかせてしまう、親馬鹿が代名詞、そんな母です。至らない生活でも、我が子は周りに支えてもらいながら、貴校に通う日々を過ごしております。いつも支えて下さる皆様に感謝しております。

宿題に渋々取りかかる姿に、冒頭のようにいつい声を荒げてしまうのですが、いつかは必ず不可能は可能になり、世のため人のために何かを生み出せる人になれる。根拠はありませんが、強く我が子を信じております。二人に寄り添い、幸せを願い、母の役目が終わるまでは、全力で見守るといふ信念は灯火のようにずっと静かに燃えております。そのように母として思うのです。

しかし、心身ともに健康であたりまえの生活があり、それがどんなに有り難くてどんなに素晴らしいことだと思っても、時に、もつとこうなつてほしい、あなつてほしいと期待や欲が膨らんでしまうことも多々あり、母として反省しております。

長男は私に生きる力を与えてくれた子です。当時乗り越えられなかった心の痛みを拭い去り、前に進む勇氣を与えてくれました。次男は探究心が強く、その行動は私を母にするため、成長させるための指針です。母として、二人とともに学び続けたい。

大人になるための階段を自らの足で歩んでほしい。時に一休みして。そして辛く悲しい経験は、必ず乗り越えられると信じて。同時に思い出してほしい。二人を誰よりも大切だと思う人がここにも、そこにも、これから先にもいるからねっということも。

永久保存

デジタル化がすすみ、紙媒体は少なくなったとはいえ、学校配布物は紙媒体が多い。子供たちのプリント袋は、毎日のプリントでパンパンになっている。そこで私は、『一読』『保留』『保存』と分別し、プリント整理をしている。しかし趣味『断捨離』の私は必要なプリントまで捨ててしまうことも多い。他の保護者の方に「参観日いつですか？」とお伺いしたり、あゆみに「宿題プリントは親が捨てました。子供は悪くありません。」と書いたことも一度や二度ではない。

そんななんでも捨てる私が『永久保存』と決めたプリントがある。それは令和四年二月五日付の『一味会の無観客化について』のプリントである。このプリントには、一味会は中止せず無観客で行う、学校内外の感染状況や会の趣旨を鑑み、この方法が最善と学校は判断した、という決意にあふれた内容が書かれていた。

この時期世間では、新型コロナウイルス感染症を恐れるあまり、数多の行事が中止となっていた。私は感染症病棟で勤務しており、感染対策についての知識はあったが、いつしか感染を過剰に恐れ、というより風評を恐れ、自粛やむなしと自衛的になっていった。そんな私にこのプリントは、世論に流されず、正しい知識と信念を持って自分が最善と思う道を進んでいけば良いのだ、と気づかせてくれた。うなだれていた私を鼓舞してくれた。

なんでも捨てる私だが、心の琴線に触れたものは捨てることができない。子供の作品や宿題、その他のプリントに心を揺さぶられていないわけではないのだが。

スマホデビュー時期を考える

娘はいつの間にか私のスマホを使って、エンタメコンテンツから情報収集まで活用しており、親として、本人にスマホを買い与えるタイミングをいつにすべきかずっと悩んでいました。

たまたま小学校教員をしている友人から精神科医であるハンセン著の「スマホ脳」という本を紹介され、興味深く読みました。その中に、報酬系回路に関係する神経伝達物質・ドーパミンにより、ギャンブル以上にスマホ中毒になっていく危険性について触れられており、はっとしました。実際、スマホを使用する時間が増えるにつれ、私達の睡眠時間は減り、身体を動かすことも少なくなっています。また、不安や鬱に対して脆弱な精神状態が見られたり、SNSの情報が自分と他人を比較する判断材料になっていることも否めません。

スマホの無かった自分の子供時代を思い起こしてみると、朝の合唱部の練習の後は、友達とサッカーやバスケットを思いきり楽しんだり、放課後は一輪車競走に興じたものです。今でも香りや色まで鮮明に思い出せる光景の中には共感し合える仲間がたくさんいました。ハンセン氏も、効果的なスマホ依存対策に運動を挙げ、集中力や情報処理能力といった知的発達そのものの根源をつくるには運動が不可欠であると明言しています。

感性や身体能力を磨くとともに、人とのコミュニケーションを円滑にできる様にサポートし、スマホという便利なツールを、バランス良く生活に役立てていけるよう子供と一緒に考えていきたいと思えます。

君に幸あれ

陽の光が燦々と降り注ぎ、子どもたちの笑顔をより一層輝かせます。真冬でも、こんなにも暖かな気候は宝です。

徳島に移住してから七年の歳月が過ぎました。幼稚園の初日、まだ方言というものを知らなかった息子が「みんな徳島のお声で話すの。」と驚きをもつて報告してくれたことが、まるで昨日のことのようです。そんな息子も今では、寝言までもが阿波弁です。異文化の中それなりの苦労があったようですが、素晴らしいお友達に恵まれ、徳島の良さを学ばせていただけたことと思います。残念ながら子どもに対する人権意識の遅れは、移住における唯一の誤算であり、痛恨の極みです。しかし子どもたちの健やかな育ちのために、共にお考え下さる方が大勢いらっしやることは、一筋の光だと言えましょう。教育者の端くれとして、あきらめずに働きかけていくことを、子どもたちに誓います。

二〇二〇年、スウェーデンから遅れること実に四十年、日本でも子どもを怒鳴ることは虐待であるとして法律で禁止されました。二〇二二年には生徒指導提要改訂に伴い、不適切指導の筆頭に怒鳴ることが挙げられました。二〇二三年こども基本法が施行され、いじめ、体罰、不適切指導、虐待から子どもを守り、救済することが掲げられました。子どもたちが幸せに生きるための法整備は、着実に進んでいます。AIと共存する時代が迫り、今後益々優しさや誠実さ、人間ならではの社会的知性が重んじられるでしょう。

児童のみなさん、いつも健気な姿を見せてくれてありがとう。みなさんが羽ばたく大空に、明るい希望が満ちていますように。

進歩するテクノロジー、人間との協調

ご存知の方も多いと思うが、ブラックジャックは手塚治虫先生が描いた天才外科医の話である。小学生の頃に読んで、胸を躍らせたことを今でも鮮明に覚えている。先日、そのブラックジャックの新作が発表された。生成AIと人間が共同で作ったらしい。体内の臓器すべてが人工臓器で置き換えられ、AIで制御された難病の患者さんの手術をブラックジャックが執刀するというストーリーである。とてもよくできていると感じた。

今の時代のテクノロジーの進歩は目覚ましく、想像を絶する。例えば医療。ロボットを使った手術が盛んに行われるようになってきた。私自身、二十年前にこのような時代が来ることをまったく想像していなかった。少なくともこのような最新のテクノロジーを駆使した医療を患者さんに提供できるようになったことは歓迎すべきである。AIも然り。その功罪はよく議論されるが、実際、様々な分野で世の中に貢献している。今後AIを搭載したロボットが自動で手術をしてくれる時代が来るかもしれない。少々恐ろしいが。

私の娘、また、これからを担う子供たちは、このようにテクノロジーを含め、様々なことが急速かつ、革新的に進歩する時代を生きていかなければならない。大変なことであるが、ぜひ「協調」して、より良い社会を作っていくだけだと切に願う。

ひるがえって、ブラックジャックの新作の話に戻る。最終的に、彼はAIを「コントローラー」し、かつ「協調」してその難病の患者さんを救った。そのメッセージはたいへん重要である。

小学校生活を振り返って

お世話になりました

兄弟あわせて十年間、文理小学校にお世話になりました。息子達、性格もそれぞれで、ポジティブ思考で要領がいいけど、目の前のことが全く見えていない大雑把な兄とネガティブ思考で慎重、几帳面だけドスローペースの弟です。個性に応じた育て方が出来ればいいのですが、それって何？のまま今も試行錯誤しています。

そんな彼等との小学校生活で、私自身が掲げていたこともありました。一つ目は「怒らない」です。でも、一年生では兄弟共に泣かせました。宿題の平仮名プリントで子供が書いた字を片っ端から消して、苦笑いで「あ、ほとんど消しちゃった。」と返せば泣かれ（だって直しになるから）、計算カードの練習では残り一枚でタイマーが鳴り、笑いながら「惜しい、もう一回！」と言えば泣かれました。私のスマホに、タオルを握って泣きながら宿題をしている一年生の弟とその隣で笑いをこらえて宿題をしている五年生の兄の画像が残っており、最近この画像を彼等に見せたら、「これ撮ったお母さん、相当やな！」と言われました。確かに。二つ目は「共に学ぶ」です。勉強しなさいと言われるだけではやる気もおきないものです。だから、テスト前には一緒に教科書やノートを読み返し、話し合いました。すると、漢字や文法、社会の仕組みが学年に応じて段階的にきちんと習得できるように非常に細かく考えられた教育プログラムになっていることに、大人になって初めて気付かされました。この経験は文理小学校が「自立協同」のもと、家庭学習にも重きをおく方針だからこそ得られたものだと思います。非常に感謝しております。

我が家の四人の子供たちは現在大学三年生の長男を筆頭に全員徳島文理小学校でお世話になりました。今年は何番目である次男が小学六年生で、十五年間連続で通った我が家もとうとう卒業です。長男、長女は現役で志望大学に合格でき元気にキャンパスライフを満喫しています。次女は現在文理中学校二年生で自分の夢に向かって学友とともに頑張っています。実は父親として子供たちの学校生活を垣間見る機会はなく、夕食時に話を聞く程度で保護者会活動においては妻に完全委任していました。

そんな私でも十五年間欠かさず運動会には参加しました。家庭では見られない我が子の様子や児童みんなの様子がつぶさに観察できる貴重な行事でしたが十五年見ていると変化に気づきまがった時に感激したものです。しかし危険性を重視してかいつのまにか姿を消しました。ケガするのを恐れて危険性を除去するばかりではなく、ケガをするかどうかのラインを知るのも成長の過程で必要ではないでしょうか。また最近ではコロナ対策として風通しのよい屋外にも関わらずマスク着用要請や巨大な送風機を設置する状況を経験しました。開催のために努力された先生方の心労はもちろん痛いほどよくわかります。日本は今「何かあったらどうするんだ症候群」が蔓延しているように感じます。児童の安全が最優先なのは当然ですが、果たしてそれは科学的に意味があつて、実際児童のためになつているのか常に検証されるべきではないでしょうか。